



## 今日の内容

- 1 東日本大震災の山元町の被害
- 2 山下中学校が避難所になった時の様子
- 3 避難所開設・運営について



## 東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)

- 2011年3月11日 14時46分発生  
(平成23年)
- M9.0
- 日本観測史上最大級の海溝型巨大地震
- 南北500km×東西200kmの断層破壊
- 巨大津波(15~20m)→沿岸市町村壊滅

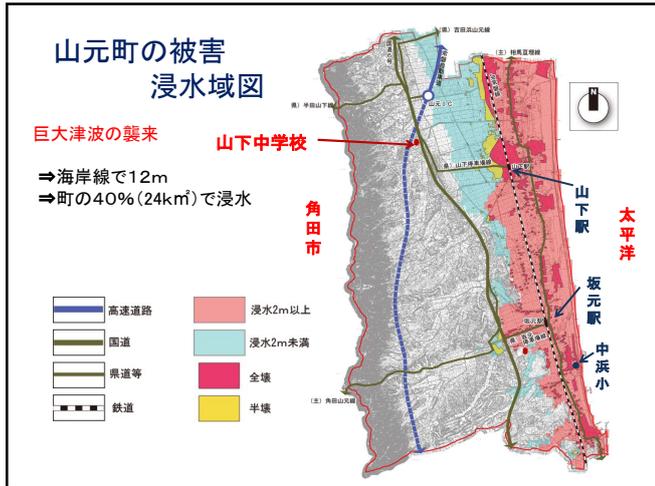


### 気象庁による津波・津波警報等

- ① **午後2時46分: 巨大地震発表(M7.9)** 実際はM9.0なので、45倍のエネルギーであった
- ↓
- ② **午後2時49分** (地震発生から3分後の予報)  
岩手県:3m 宮城県:6m 福島県3m  
25分 (10分後に6mの津波) ★ 停電
- ↓
- ③ **午後3時14分** (地震発生から28分後の予報)  
岩手県:6m 宮城県:10m 福島県:6m
- ↓
- ④ **午後3時31分** (地震発生から47分後の予報)  
岩手県:10m 宮城県:10m 福島県:10m

### 実際の津波到達時間

- ・岩手県宮古市: 35分後(7.3m)=午後3時21分
- ・岩手県釜石市: 35分後(9.3m)=午後3時21分
- ・岩手県大船渡市: 29分後(11.8m)=午後3時15分
- ・宮城県石巻市: 34分後(7.7m)=午後3時20分
- ・**宮城県山元町: 1時間4分後(10m超)=午後3時50分**
- ・福島県相馬市: 1時間4分後(8.9m)=午後3時50分



### 山元町の被害

- 人的被害数(平成25年3月1日現在)
  - 死者 637人
  - ※町内での遺体発見数674人
- 家屋への被害(平成25年5月24日現在)
  - 全壊 2,217棟(うち流出1,013棟)
  - 大規模半壊 534棟
- 津波浸水区域
  - 浸水範囲面積 24km<sup>2</sup>(約40%)
  - 推定浸水域にかかる人口 8,990人
  - 推定浸水域にかかる世帯数 2,913世帯(52.4%)



## 避難所となって



## 山下中学校



## 3月11日(金) 第1日目(午前中卒業式)

晴れ夜雪(6.2°C, -2.5°C)

体育館は非構造物の落下のため使用不可  
30分後停電, 津波情報あり  
数時間後断水

### 避難者続々来校

職員は, 状況不明のまま対応に追われる。

町内全地区民  
国道走行車両  
JR乗客  
観光客  
原発避難者  
他町から避難



## 3月12日(土) 第2日目

朝雪(8.8°C, -1.1°C)

- ・新聞届く
- ・町の給水車により水確保
- ・教室等を避難者の生活場所へ
- ・冷凍食品や食材の提供
- ・深夜, 仮設トイレ2台到着
- ・生徒の安否確認を並行して行う
- ・温かいスープ調理配給開始



### 教室を小さなコミュニティに



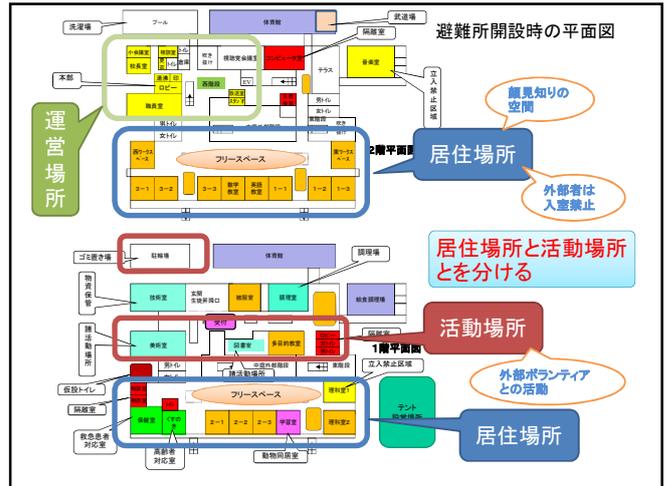
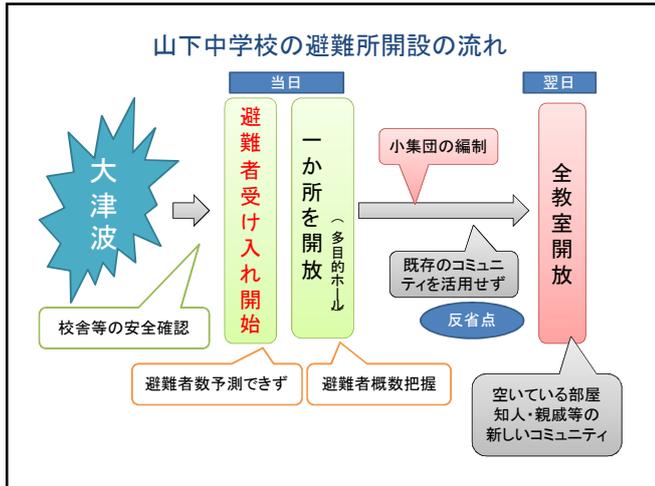
津波・地震等の違いで避難所の持ち物は違う

### 1階の部屋は高齢者・車椅子

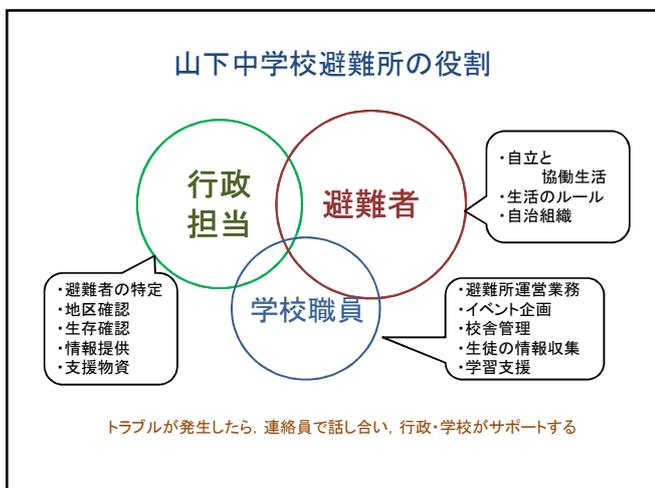
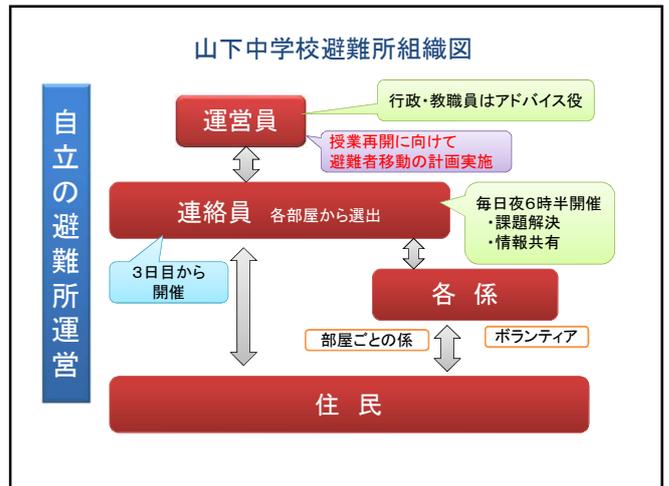


廊下も活用





- ### 山下中学校避難所は……
- 1 避難者の代表者による運営  
生活のルールはここで決定
  - 2 外部ボランティアを運営には入れない  
できることはすべて自分たちで行う
  - 3 小集団によりコミュニケーションをはかる  
教室を開放し、避難者の生活スペースにした
  - 4 居住場所と活動場所を分ける  
落ち着いたボランティアの入らない居住空間
  - 5 生活しやすいルール  
夕食遅延証、保育所昼食
  - 6 心の醸成活動  
お花見、花壇整備、特技披露



### 避難所サービス

## 生活しやすい避難所にするために

### 体育館？ 教室？

- 避難者の安全・心の安心の場所
- 避難時期 季節（暑い 寒い）
- 避難所開設期間 長期・短期
- 学校授業再開の時期
- コミュニティーを活かす運営
- 次のステップへの準備

### 【自分を活かす避難所とは】

- 趣味 ○仕事 ○資格 ○人柄 ○知識・知恵

## 避難所(収容避難所)とは

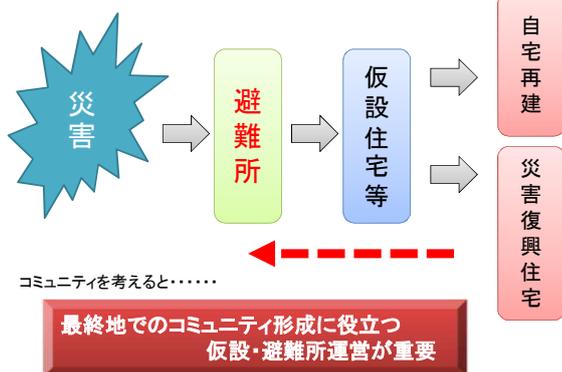
災害によって短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う施設。(ウィキペディアより)

???それだけ???

将来避難所を出たときに、沢山のものを失った中でも逞しく生きていく（自立する）心をもつための準備をする施設でもある。

ただ、寝食をするだけの場ではないし、そうしてはいけない。

## 災害から避難所、仮設住宅、復興住宅への流れ



そのためには……次の場所での生活を考えて

- ① コミュニティづくり ⇒ 小集団
- ② 自立していくことのできる活動  
⇒ ボランティア活動・活動役割
- ③ 避難所の自治活動

小集団に分けることのできる施設の準備

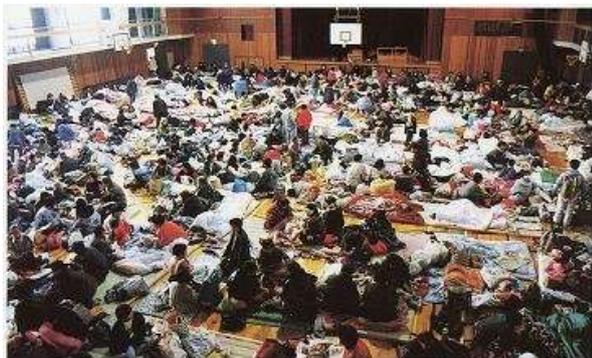
避難所として学校施設（教室等）は、  
最善の施設である

熊本地震時の避難所は、  
東日本大震災時の教訓が活かされているか？

・避難所として提供と学校再開の時期

山元町は45日後に学校再開、熊本は30日後に学校再開

## 避難所の光景(阪神淡路大震災)



西宮市立津門小学校

## 避難所の光景(中越地震)



小千谷市総合体育館

## 避難所の光景(中越地震)



長岡市立北中学校体育館

## 避難所の光景(熊本地震1)



## 避難所の光景(熊本地震2)



そのためには・・・

- ① コミュニティづくり ⇒ 小集団
- ② 自立していくことのできる活動 ⇒ ボランティア活動・役割
- ③ 避難所の自治活動

熊本地震時の避難所は、  
東日本大震災時の教訓が活かされているか？

小集団に分けることのできる施設の準備



避難所として学校施設(教室等)は、最善の施設である

学校の場合・・・

- ・ 避難所として提供と学校再開の時期

山元町は45日後に学校再開、熊本は30日後に学校再開

## 避難者の自立に向けた 自治活動をすすめるには

- 一人ひとりが、ルールを守って、  
助け合いの気持ちを持つこと
- 自分たちのことは自分で行う
- 「ないものねだり」より「あるもの探し」へ
- 歩み寄りが集団生活には必要である



話し合いができる小集団の形成が必要



教室が最善である

ありがとうございました